総合教育研究センター
学生向け情報誌
クレードル
20 号

CRADLE
Center for Research And Development of Liberal arts Education
20th issue

2021 年度「森に生きる」in 桜井市鹿路「夢咲花（ゆめさか）」

―8月5日林業体験の報告―　p.2

竹村 景生（総合教育研究センター）

2021 年夏、「森に生きる」が復活！！！

2004 年から途切れる事なく続いてきた「森に生きる」。

2020 年はコロナウィルス感染拡大によりやむなく中止･･･

今年はコロナ禍の中でも実施できる実習内容にリニューアル！！

しかし感染状態が悪化したため、残念ながら実施できたのは１日だけ。

その１日で学生達が感じ、思ったこととは････

やさしいきもち

心の健康法16

「小さな思いやり」を大切にしましょう。　p.8

仲 淳（総合教育研究センター）

2021 年度「森に生きる」in 桜井市鹿路「夢咲花」
―８月５日林業体験の報告―

総合教育研究センター　竹村　景生

本年度の「森に生きる」は、コロナ禍の中、従来の合宿による体験学習から、日帰りで行う林業体験と学内での講義ならびに間伐材を活用した実習（スタードーム、ツリーハウスの製作）に切り替えることになった。

合宿はなくなったけれども、桜井市鹿路にある山林での間伐体験の参加者たちの声を紹介したい。

補足ではあるが、連続して受講してくれる学生には、今後「スタードームマイスター」認証も検討している。多くの学生がこの天理大学ならではの授業を受講し、その技術や感性を地域や職場で活かしてほしいと願っている。

スタードーム模型

参加者

◎学生

国際学部外国語学科　２年　辻川 萌
国際学部外国語学科　２年　吹ケ 心
人間学部人間関係学科　１年　大伴 勇二郎
人間学部人間関係学科　１年　岡田 真依

人間学部人間関係学科　1年　香川 万里子
人間学部人間関係学科　1年　田村 哲也
人間学部人間関係学科　1年　徳田 裕大
人間学部人間関係学科　1年　的場 孝太郎
人間学部人間関係学科　1年　若林 秀浩
人間学部人間関係学科　2年　金山 真耶
人間学部人間関係学科　1年　松田 愛子
人間学部人間関係学科　1年　矢﨑 友萌
体育学部体育学科　1年　泉山 隼呈
体育学部体育学科　1年　林 ツォンヤン
体育学部　科目等履修生　甲斐 大喜

◎引率要員　関本克良　谷口直子　竹村景生　杉本めぐみ
（総合教育研究センター、生涯教育専攻）
◎準備協力　上田喜彦（総合教育研究センター）
◎指導員　森本英雄（夢咲花・桜井市鹿路）
◎送　迎　糸賀亨弥

◈そわそわ、どきどき、出発だ！！

8 月 5 日木曜日、私は「森に生きる」の実習で奈良県桜井市鹿路にある夢咲を訪問させていただきました。これまで私は、森とはほとんど無縁の人生を送ってきました。履修登録時に、私は実習でどんなことをするのかシラバスに掲載されている情報以外の詳細を知らなかったのですが、興味半分で友人を誘い登録しました。Zoom を用いてのオンラインと対面の計 3 回の事前研修で、現在の日本の現状について知りました。
（辻川萌）

自分は今回の「森に生きる」の林業体験をものすごく楽しみにして待っていました。ですが、新型コロナウイルスの影響で計画していたお泊りがなくなり、その知らせを聞いたときはすごく落ち込みました。しかし、日常生活ではなかなかできないチェーンソーを使い、木を切るという貴重な林業体験ができるので、これだけでも楽しみでした。

いざ当日の朝になると、小学生の遠足の時のようなワクワク感が胸の底からぐつぐつと湧いてきました。そのせいで、天理駅での集合時間の３０分前に来てしまい、自分でも何をしているんだろうと思いつつ林業体験へのワクワクが少し怖くなりました。
（若林秀浩）

◈到着！そこには天目一箇命が座す山里だった

10 時半ごろぐらいに、天一神社についた。天一神社に到着すると、「夢咲花(ゆめさか)」という工房を持つ、木工作家の森本英雄さんから、最初に天一神社のことをお話していただいた。配られたパンフレットにも載っていたとおり、天一神社は杉の木をご神体として祀られている奈良県内では唯一の神社であるようだ。ご神体の杉の木は、存在感があふれていた。森本さんによると、天一神社の名前の由来は、日本神話に登場する製鉄・鍛冶の神とされている天目一箇命（あめのまひとつのかみ）という祭神がこの神社に祀られており、一つ目の神様で火を見続けているため一つ目になったそうだ。刀剣鍛冶が鉄の色で温度をみるのに片目をつむる仕草、または火の粉で失明するということから「一つ目」は鍛冶職人の象徴とされていると知っていたので、「天目一箇神」が一つ目の鍛冶の神であるというところにつながりを感じた。
（松田愛子）

◈いざ間伐実習へ！

先入観で危ないと思い込んでいたのですが、慣れたら段々楽しくなってきたことで電動だけではなく、エンジンのパワフルなチェーンソーも体験させていただいたので、自分からではなかなかできない体験をさせて頂けてとても面白かったです。刃の真ん中くらいで切り始めると回転に持っていかれて体の軸がズレることで事故の確率が上がるので、しっかりと腰を落として体重を足にしっかりと乗せるべきだとわかりました。
（泉山隼呈）

今回の実習では、男女で分かれて樹齢 20 年前後のヒノキの間伐を体験した。私は女子グループということもあって小さめのチェーンソーを使い、直径 10 センチ程度の比較的細い木を切ったが、足場の不安定さや木の見た目以上の丈夫さに緊張と手際の悪さから初めは 1 本を

切るのに思った以上に苦戦した。慣れてきたころには木を切りながらヒノキの香りを楽しめたり、達成感を感じたりしたが、林業を生業としていたら周囲の環境や木の大きさはこの実習の比ではなく、より危険で過酷なものだろうと想像できた。
（矢﨑友萌）

◈森の感想　（学んだこと　夢咲花での体験）

私は、夢咲花にいった事でここでしか学ぶことができない体験を多く学んだ。一つは、自然について、二つ目は、林業について、三つ目は、チェーンソーなどの機械の使い方である。風が吹けば冷たく感じるような冷たさと木々が風で揺れる事で涼しさを感じることや、森本さんが優しくニコニコと微笑みながら林業や道具の使い方も楽しみながら学んだことでプライベートでも気軽に行きたくなるような雰囲気を私は強く感じた。
（金山真耶）

普段は関わる機会の少ない他学部の天理大学生との共同作業は、とても貴重であった。間伐体験の際は、コミュニケーションをとって協力して作業に取り組むことができ、講義型の授業では味わえない楽しさと達成感を得ることができた。

森本さんのお話の中に、コロナで外国産材の輸入が減少しているというのがあった。安価な外国産の輸入材が減り、これを機に価格の差はあるものの国産材の需要が増え、それに伴って、現在懸念されている林業従事者が増えてほしいと願う。外国産に負けない、品質の高い木材を生産するためには間伐などの手入れが欠かせないことを知り、今回はとても貴重な体験をさせていただいた、ということを改めて実感した。
（吹ケ心）

森本さんはとてもやさしく、このボールペンはあの木からできたんだよとかこの木を選ぶのはセンスがいいとかたくさん教えてくれたりほめてくれたりしてくれました。森本さんがおっしゃっていたのですが、時代が変化していくごとに若者たちが林業に興味を持たなくなる世の中で、すこしでも木のすばらしさを知ってほしいという願い、最初は軽い気持ちで聞いていたのですが、今ではもっと真剣に考えるべき問題なのだなと思わせていただきました。来年こそもっと深く森のことが知れるように、頑張っていきたいと思います。

（的場孝太郎）

この「森に生きる」に参加したおかげでさらに林業への興味が湧きました。林業だけでなく木や森そして自然への興味も倍増しました。そして天一神社のどデカイ木には度肝を抜かれました。すごいエネルギーを感じてとても迫力がある木で見ているこっちが大きなパワーをもらえた気がしました。夢咲花は現地の人がとても気さくな笑顔で迎え入れてくれ、そして山の中は大自然でとても清らかな気持ちになれるので来た人は絶対元気になれると思いました。

（大伴勇二郎）

今回の体験を通して、体で自然を感じる良いきっかけになったと思います。木を切っているときにその木が 10 年以上かけて育ててきたものだと考えると、自分が自然と一体化したかのような気分で作業が出来たので、改めて自然の大きさに触れたというか、自分は今この壮大で素晴らしい自然の下で生きているのだと強く実感することができました。

（矢﨑友萌）

森本さんがボールペン・シャープペンシル作りを始められたきっかけは 10 年ほど前に大病を患い、奇跡的に命を繋ぎ止められた森本さんは長男に仕事を託し、「これからは自分の好き

なことをする」と宣言されたそうで、木の良さを生かし何かを作りたいと考え続け、気になっていた捨て材をどうにか生かせないかと思い行き当たったのがボールペン・シャープペンシル作りだと聞き、自分の好きなことをして生きていく生き様を見せてもらい自分も好きなことを仕事にできるようなりたいと思いました。
（田村哲也）

この「森に生きる」の授業は、本当に楽しいの一言でした。最初は虫が苦手なのと、機械音痴でチェーンソーを使うのが怖いというマイナスのイメージでした。最後には虫なんて気にする間もなく楽しんでいました。

まず、この授業は知っている人もいれば、知らない人もいて、多分知っている子としか関わらないだろうなと思っていました。しかし、知らない子が、やり方がわからないことがあったら教えてくれたり、虫がついていたら取ってくれたりして、いつの間にかすごく仲良くなっていました。助け合うことの楽しさを感じることができました。助け合うことは、知らない人と知らない人を繋げる最短の方法だなと思いました。
（徳田裕大）

◈生きるという意味の出会い直しがあって

私は現在、科目等履修生という形で天理大学に戻ってきましたが、４年前の当時大学生としての私はラグビーのことばかり考えており、このような実習があることすら知りませんでした。当時の私は将来の仕事の選択肢に「林業」などというものは全くなく、ただただ安定などを求めて就職しました。しかし、思いのほかストレスなど精神的にしんどいものがあり、すぐに辞めてしまいました。その後私はフィジーやオーストラリアなど海外生活を経験していくうちに自分の好きなことが「自然に触れたり、自然に囲まれながら生活する」だとわかりました。

そして今回、夢咲花さんでの少しの体験を通して感じたことは私も将来こんな仕事がしてみたいと思いました。また夢咲花の森本さんが仰っていたことで「林業という仕事はきつい汚い危険ですが、将来の世の中に大切な仕事でもある」というのが印象に残りました。正直に林業というものの仕事について自分の思うことを伝えながら、しっかりとこの一言で魅力に感じました。
（甲斐大喜）

◈当日参加できなかった学生の補習の感想（山の辺の道での除草）

関本先生と一緒に畑を整理したり、近くの小さい河川に行って水を取って花に水をやったりして、私にとっては今まで全然ない経験が楽しかったです。先生と話したところで大自然の綺麗な風景を維持するために我々若者の力が必要になっていると気がした。という事でもしこれから時間があって、このような機会もあれば自分の力を貢献したいと思っている。
（林ツォンヤン）

こころの健康法１６
「小さな思いやり」を大切にしましょう。

総合教育研究センター　仲　淳

新型コロナウイルスの新規感染者の発表数が、ここのところ劇的に減ってきています。その理由としては、まずワクチンの２回接種完了率が国民の約７割になってきた、ということもあるかもしれないのですが、みんながめんどくさいマスクをもう２年近くにわたってし続けてきたということも、大いに関係があるのではないかと思います。スーパーや大学の入り口などでも、こまめに手指消毒をしている人の姿が見られて、それはもちろん自分が感染しないため、ということもあるわけですが、人にうつさないため、という「思いやり」でもあるわけですよね。なんとなくそれをみんながやっているという雰囲気に、人のやさしさを感じることがある今日この頃です。

コロナのためにちょっとお互いにディスタンスができてしまったのですが、もうしばらく「小さな思いやり」を大切に、みんなでやっていきましょう！

CRADLE（クレードル）　第 20 号　2021 年 10 月発行
発行者　上田　喜彦　天理大学 総合教育研究センター
編集　仲　淳　　杉本　めぐみ
〒632-8510 奈良県天理市杣之内町 1050　電話　0743-63-7092　（内線）6111
印　刷　株式会社 春日